

第1回 町田市下水道事業計画評価委員会 議事要旨

日 時：2022年11月11日（金）10：00～11：50

場 所：町田市成瀬クリーンセンター 3階 大会議室

出席者：委 員 長岡 委員（会長）、市古 委員（副会長）、大久保 委員、大塚 委員、
内藤 委員、山田 委員、若林 委員、石田 委員、神保 委員

事務局 西澤 （下水道経営総務課長）、須田 （下水道整備課長）、
西澤 （下水道管理課長）、松井 （水再生センター所長）、
日比野 （下水道経営総務課 担当課長）、
布施 （水再生センター 担当課長）

下水道経営総務課 齊藤、北原、水村、結城、大河内、古賀、高橋、今大路

下水道整備課 北原、村上

下水道管理課 比留間、鈴木、砂坂、渡邊

水再生センター 宮川、坂本、井上、森、重野、佐藤

欠席者：鶴川 委員

傍聴者： 0名

次 第：(1) 委員委嘱

(2) 下水道部長挨拶及び関係職員自己紹介

(3) 本委員会の進め方について

(4) 委員長、副委員長の選出

(5) [議題1]「未来につなぐ下水道事業プラン」2021年度事業進捗状況報告について

(6) [議題2]「未来につなぐ下水道事業プラン」2022年度事業進捗状況（中間報告）
について

(7) [議題3]2020年度・2021年度町田市下水道事業経営分析について

(8) その他

(1) 委員委嘱

出席した9名の委員に対し、委員委嘱を行った。

(2) 下水道部長及び関係職員自己紹介

関係職員の自己紹介を行った。

(3) 本委員会の進め方について

事務局から、本委員会の進め方について説明を行った。

(4) 委員長、副委員長の選出

委員の互選により、委員長には長岡委員、副委員長には市古委員を選出した。

(5) [議題1]「未来につなぐ下水道事業プラン」2021年度事業進捗状況報告について
2021年度の目標、達成状況、自己評価の説明を行った。

■主な質疑・応答

- 町田市内の水路全長約197kmについて、民間所有の土地を流れる水路を含むのか。
→全長約197kmの水路は、全て町田市管理の水路である。

- 水路とはどのようなものか。河川ではないのか。また、流水機能はあるのか。
→河川ではなく、形態としては道路側溝、素掘りや構造物が入ったものもある。全てに流水機能があるのではなく、降雨時のみ流れるものもあれば、常時流れているものもある。

- 浄化槽の三大義務（保守点検・清掃・法定検査）に関する啓発を行った結果、その実施率はどのようになったのか。
→2021年度から開始した取り組みであり、結果については今後集計する予定である。

- 『エネルギー・資源の有効利用』 について、「エネルギーの有効利用」に関する記載がないのはなぜか。
→エネルギーについては、鶴見川クリーンセンターにおける焼却排ガスのエネルギーを活用した「過給式流動焼却炉」の導入に向けた建設工事が現在進んでいる。
(※記載については検討する。)

- 成瀬クリーンセンターの焼却は自燃か、もしくは油を足すなどしているのか。
→自燃ではなく、都市ガスを燃料として高温焼却している。省エネの観点から、効率よく脱水することで、できるだけ燃料を使用しない工夫をして運転している。

- 『下水道事業継続計画BCP（水害編）の運用管理及び訓練の実施』 について、BCPの目標が『人命を守る、犠牲者ゼロ』で良いのか。
→『未来につなぐ下水道事業プラン-町田市下水道事業経営戦略-』に記載している目標値であり、河川の氾濫時においても最低限の機能を確保するといった取組をこの10年間の中で行っていくというものである。

- 『雨水管の耐震化』 について、どのように行っているのか。
→雨水管幹線診断で、雨水管の中に人が立ち入って内面の劣化状況など確認した。竣工図などの資料が残っている場合はその資料で確認し、資料がない場合には雨水管のコンクリートを^{はつ}研る（削る）などして確認し耐震診断を行っている。

- 『下水処理場・ポンプ場の改築更新』について、水処理設備工事（ゲート工事）が2021年度は不調、2022年度には完了とあるが、予算を翌年度に繰越して、入札、施工を行ったのか。
→2021年度中に再入札、契約し、2022年度に予算を繰越して工事完了したものである。

■主な意見

- 自己評価の基準が厳しいのでは。目標を超えていれば「A」で良いと思う。

(6) [議題2]「未来につなぐ下水道事業プラン」2022年度事業進捗状況（中間報告）について

2022年度の目標、中間確認（9月末の状況）の説明を行った。

■主な質疑・応答

- 『浸水対策事業』の『雨水浸透設備設置促進』について、補助金交付の申請や決定件数が市内全体で一桁は少ないのではないかと。
→利用者の自己負担分もあるため、件数としては伸び悩んでいる。利用者の自己負担を減らすため補助対象を広げたところ、件数が少しずつ増えてきている。

(7) [議題3]2020年度・2021年度町田市下水道事業経営分析について

2021年度の経営分析について、2020年度との経年比較をして説明を行った。また、2020年度の分析は、総務省が示す各経営指標（11項目）に関する他市間との比較をして説明を行った。

■主な質疑・応答

- 汚水処理原価が128円というのは、全国的に見てもそれほど高い数字ではないと思う。経費回収率100%を目指すべきでは。
- 長期のトレンドは分からないが、2020・2021年度のデータだけを見ると、経常収支比率が下がっている。このままトレンドを伸ばしていくと、数年後には下水道使用料改定も視野に入ってくるのか。
→下水道事業計画では10年間で2つの処理場の大規模修繕を予定しており、2021、2022年度にかけて通常より多くの修繕費がかかる想定であったため、この2年間については経費回収率が下がる見込みである。2023年度からは修繕費が通常に戻ることと経費回収率も元に戻ると想定している。
→戦争の影響等による処理場の動力費が高騰している影響は、事業計画には含まれておらず、今後、汚水処理原価の上昇が見込まれる。経費回収率100%を目指すには、収入を上げるか、動力費が上がった分の費用を削るか、いずれかが必要がある。事業計画の中でも少しずつ現金が減っていく見込みであり、計画期間中に下水道使用料改定についても検討していく必要がある。

- 2021年度の流動比率が下がった理由としては、償還が大きかったということか。
→償還金額は毎年度ほぼ横ばいである。下水処理場の焼却炉の修繕で大きな現金支出があり、経常収支比率と連動して流動比率が若干下がった。

■主な意見

- 経常収支比率について、長いスパンでのトレンドのデータを次回示して頂きたい。
→法適用以前のデータは難しいが、計画期間の収入見込みについては経営戦略に記載があり、経常収支比率についてデータを示せるため、次回提出する。
- 経常収支比率について、一般会計の負担金が多いことで100%を超えていると思われる。営業収益の内訳で比較し、営業費用も積み上げグラフにしてはどうか。
→検討して、次回に回答する。
- 全体的な評価として良い。全体を通して「悪い」評価がなく、おおむね健全と言える。

(8) その他

事務局から、事務連絡を行った。

閉 会